
指名手配犯の一日

相櫨りわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

指名手配犯の一日

【Nコード】

N0593F

【作者名】

相槿りわ

【あらすじ】

時は中世。空を飛べる特異体質少女メニーは魔女裁判にかけられるので月1くらいのめやすで国の人々から逃げております。そんなある日友達のルーから市民プールに行こうと誘われまして・・・のんびり少女メニーの一日。

（前書き）

ぐーたら小説でございます。ハチャメチャなのでよかつたら読んでみてくださいませ。

突然ですが、わたしは空が飛べます。

箒とかは使いません。ぎゅって地面を蹴って手でギュンって空気を押すと、空が飛べるんです。

平泳ぎに似てます。ぎゅっ、ぎゅっ、ぎゅって空気を押せば押すほど空高くまでいけるのです。

でもわたしは、この間すっかりと兵隊さんに飛ぶ姿を見られてしまいました。

すごく空高くまで上がる際に見られていたようです。

そんな訳で今、わたしはとっても大変なことになってしまっているのです。

（時は中世）

見つければ、魔女裁判にかけられる。そうすれば100分の99・99999以上の確率で釜茹でとか、火あぶりとか、打ち首の刑にかせられる。そんなの、絶対に嫌です。まだ16歳なのに、そんなことで死にたくありません。

そもそもわたしは生まれつき空が飛んでいたのです。そのほかに特別凄いことができるかって言うってできません。ただ空を自由に飛べるだけなのですよ？

中世に空が飛べても平成に空が飛べても、いいことはありませんよ？中世ならさつきも言ったようにほら、見つかった途端に殺されちゃいますから。

平成では別に空気だって特別澄んでるわけでもないし、まあ見つければメディアのなかで大変なことになりますしね。ですからわたしは、願わくば普通に生まれてきたかったものですよ？

けれどこうなったからには仕方がないのです。逃げましょう。

まあいろいろとそんなわけでありまして、今わたしは国中の人々に首を1000万円ほどの値打ちで賭けられています。皆さん血眼でわたしを捜さないでくださいませ。怖いです。

わたしには仲間がおりまして、この人たちは唯一わたしを血眼で捜しません。ルーとメリとユイ様です。ちなみにわたしはメニーといっています。

最近ルーがですね、わたしとメリとユイを市民プールに誘ってくださいます。

慎重さんなメリは反対いたしましたのですがユイとわたしが行きたがり結局行ったのですね。

「わー、ひろーい」

「いいねーなつってー」

「あついですよー」

「やっぱやばいってー」

えっと今、プールの受付にありまして、受付のお姉さまもすきあらば辺りを見回します、血眼で・・・怖い。わたし、狙われてますね。「うけつけのおねえさんにんげんねーだーみたーい」

「しっ、るー！かんづかれるよ！」
メリさんは慎重です。こんなことで感づかれることなどはきつとありません。

まあ、悠々とプール内には入れたのですがねー。

ユイは「すりるすらいだーにのりたー」とおっしゃいまして。でもですね、わたしは正直乗り気じゃなかったのですよー。何故かつて？だって、このスライダー、0から200までの番号がある紙をくじ式に引きまして、0を当てた人は無差別に容赦なく殺されるんです。

どこかの国の王様がこの国に来たときに偶然ここに立ち寄りまして、偶然0を引いて殺されたことがあるそうです。この制度はもう3世紀ほど前からありまして有名ですよ。

生きる願望の強いわたしはそんなものに乗りたいわけではないわけです！

！！！！生きましようよ。

でもでもユイはどうしてもスリルスライダーに乗りたいたいと言い張り結局わたしたけはただの丸いプールにいて他の3人はやってきて、無事生還いたしました。ユイは1番でメリは43番でルーは95番だったそうですよー。ユイさん、危ないです！

「おもしろかったよー。のればよかったのにー」

「えんりよします。こんなことでしにたくありません」

ご丁寧に遠慮いたしましたとさ。

「ねえやつぱいっしょにのろう」

「いやですって」

「またもやわたしは死の危険にさらされております。ですから死にたくないんですったら！」

「けれどわたしは、ユイに引き摺られるようにして乗りました。ああ……」

「運命のくじ引き。血眼のお兄さんが持つ箱の中から祈りを込めて一枚引き出します。」

さて、その番号は？

ふるふる震えながら四つ折の紙を開きます。

『0』

「つきや

「！！」

悲鳴を上げて後ずさります。イヤイヤイヤ、殺さないでください

っ！！

白いズボンに青いパーカー姿のキャップをかぶったお兄さんが一歩わたしが後ずさると一歩こちらに動きます。このままじゃ殺される

！！

た、たすけて……。そう思って三人の方をチラと見ます。三人は横を向いて口笛吹いてます。

「う、うらぎりもの

っっ！！！！」

もう、どうにでもなってくださいっ！！あたしはついに回れ右して走りだしました。

ただただだっ。後ろからはあの恐怖のお兄さんが4人ほど追いか

できます。うふふ、とっても足が速いですね。小学校じゃいつもリーの手選手だったでしょう？ああ、もうあまり差がない・・・

仕方ありません。もう逃げ道はないようです。こうなったら本性をあらわしましょう。

わたしは地面をぎゅっと蹴り、ばたばた手をはためかせます。ああ、あの人たちがもう蟻のようです。多分私が飛んだことであの人たちは大騒ぎに、大乱闘になっていることでしょう。今のうちに逃げなければ。

わたしはわたしなりに急いで、いつもの2倍ほどのスピードで飛びました。分速20メートルくらい。え？遅い？でしょうね。なに、いいのです。どうせこんな高くには大砲だって届きませんから。目指すは海の向こうです。どこだか知りませんがニッポンという小さな島国があると聞きます。そのリュウキュウとやらにすみましよう。何しろ暖かいそうですからね。

時は、中世。わたしはこんな感じに月1くらいのめやすで魔女裁判から逃げております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0593f/>

指名手配犯の一日

2010年12月25日16時48分発行